

つなげ、救命の連鎖 医師と私たちでつなぐ命



新方式で2台体制
命を守るドクターカー

皆さんはドクターカーを知っていますか。これは、事故現場などに医師と看護師が救急車で直接出勤して医療行為をするものです。前橋でのドクターカーの取り組みは5年前から前橋赤十字病院と連携して開始。消防署から病院まで救急車で医師を迎えに行き現場に急行する、ピックアップ方式で運用していました。

6月からはこの方式を変更。病院に救急車と救急隊員が常駐し、出勤要請があったら医師とすぐに出勤できるよう、ワークステーション方式を導入しました。さらに前橋赤十字病院の移転に伴い、群馬大学医学部附属病院とも連携し、市内に2台のドクターカーを配置。医療行為開始までの時間をさらに短縮しています。また、救急車内でのマイナンバーカード活用や画像伝送の実験なども行い、救命率の向上や、後遺症の軽減を目指しています。

☎ 027・220・4513
☎ 027・220・4513

Interview

患者との接触をより早く

ドクターカーが病院に常駐することによって、医師が患者に接触できるまでの時間を2、3分、短縮できていますね。医師が直接患者の状況を把握できるので、現場で病態を判断した上で、必要な初期治療を行い適切な医療機関に搬送できるメリットがあります。前橋のように、消防局の救急車がドクターカーとして常駐するシステムは他ではあまりやっていません。皆さんの命を守るため、医師と救急隊、病院と市で協力して取り組みを進めています。

このような高度なシステムがありますが、本当は出勤がないのが一番いいこと。命を守るために私たちは受け入れ体制を万全にしつつ、皆さんの普段からの健康生活にも期待しています。



前橋赤十字病院
高度救命救急センター長
中村 光伸さん

2台体制は前橋の強み



群馬大学医学部附属病院
救命救急センター長
大嶋 清宏さん

現場の状況を熟知した救急隊と、医療行為ができる医師が一緒に出勤できるので、役割分担をしながら対応できます。また、現場にいる医師と病院で待っている医師が連絡し合えるので、患者が運ばれるまでに病院での準備体制を整えられる面もメリットだと感じますね。2台のドクターカーで市内をカバーできるのは、前橋の体制の強みだと思います。他の市町村からもこの取り組みは注目されています。前橋から、よりたくさんの方の命を守る体制がいろいろな場所に広がるといいですね。まだまだ病院の体制など課題もありますが、いずれは24時間、365日対応できるように、消防や周りの病院との連携を続けていきます。

● 命を守る救命の連鎖

病院に消防の救急隊員が常駐し、要請があれば医師と一緒に現場に向かうドクターカーの仕組み。中村さんや大嶋さんが話すように、患者側にも病院側にもメリットはたくさんあります。皆さんの命を守るため救命救急の最前線にあるドクターカー。ですがこれで安心、という訳ではありません。

突然のけがや病気を発症した患者を救済し、社会復帰させるためには、「救命の連鎖」という一連の行動が必要です。左図のように連鎖を構成する4つの輪がつながると救命効果が高まります。

1つ目の輪は、日頃からのけがや窒息など心停止の原因の予防。2つ目は倒れた人を見かけたら勇気を持って通報をするのと。3つ目の二次救命処置は、救急隊が到着するまでにその場に居合わせた人が行う救命処置。この二次救命処置があるかないかで、救命の可能性は2倍も変わります。



● 医師だけじゃない 私たちがつなぐ救命の連鎖

ドクターカーが活躍するのは救命の連鎖の4つ目の輪。3つ目の輪までは、自分自身やその場に居合わせた皆さんの行動次第。医師や救急隊だけでなく、私たちが救命の連鎖を支える重要な役割を担っているのです。この役割を誰もが担えるよう、消防局では119番通報の際、電話越しに必要な救命処置を助言したり、毎月の救命講習会や小学校などで啓発活動をしたりして、救命処置の大切さを広めています。

ドクターカーや医師の処置が効果を発揮できるかどうかは、私たちがつなぐ救命の輪が鍵。他人事と思わず、身近な人を救う術を身に付けておきましょう。